

3 . 流域の社会状況

荒川流域は、新潟県側では荒川町、神林村、関川村及び中条町、黒川村、山形県側では小国町、飯豊町、そして福島県側では山都町やまとまちの5町3村にまたがっている。

このうち山形県飯豊町、福島県山都町は荒川流域内では人口がなく、わずかな山地地域だけであることから、人口・産業面については3町3村（新潟県荒川町、神林村、関川村、中条町、黒川村、山形県小国町：以下「流域関係町村」と呼ぶ）を対象とする。

3 - 1 土地利用

荒川流域は、流域面積からみると山地面積の割合が約90%を占めており、平地、河川区域面積はごくわずかである。これは上流域には朝日・飯豊山系を主体とする山間部、中流域には荒川峡・赤芝峡に代表される峡谷区間があるためであり、河川の中でも急流な河川の部類に属しているといえる。また土地利用状況では、山地となっている部分の面積が多いことから、都市・農業地域に対して森林・自然保護区域等の自然区域の割合が多く、自然に恵まれた流域であるといえる。

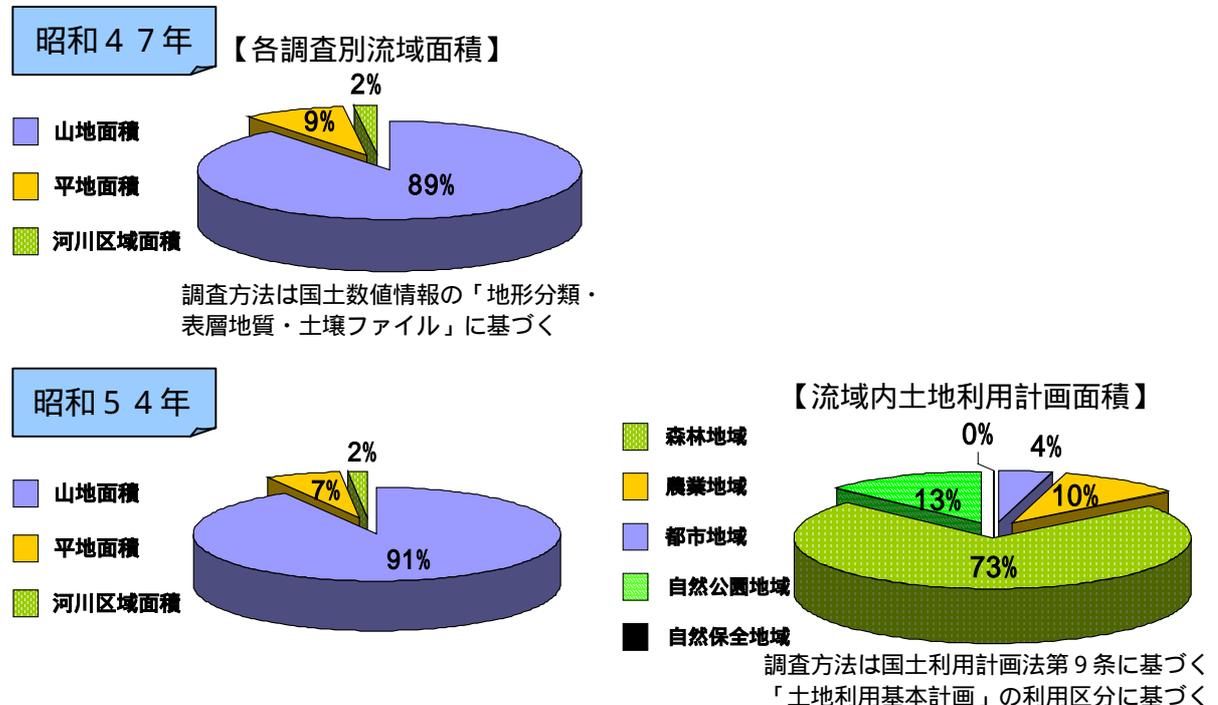


図3 - 1 - 1 流域内土地利用状況(工実策定後)

出典：河川現況調査 建設省北陸地方建設局 S47 S54

平成10年

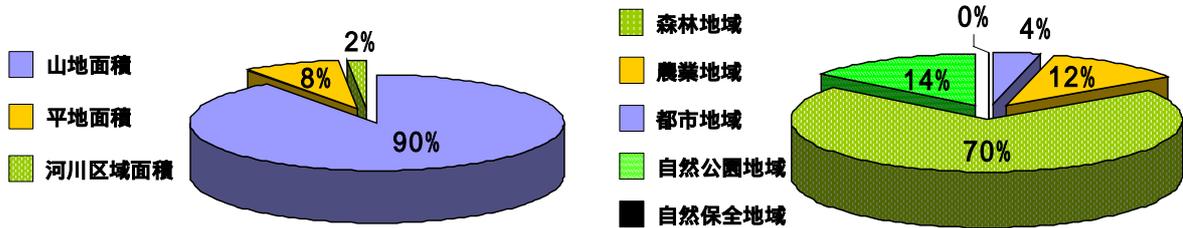


図3-1-2 流域内土地利用状況（現在）

出典：河川現況調査 建設省北陸地方建設局 H10.3

また、流域関係町村別の土地利用状況を見ても、森林区域が全体の8割以上を占め、そのほとんどが山形県小国町と新潟県関川村に集中している。小国町は朝日・飯豊山系の山並みに囲まれ、森林の多くがブナなどの広葉樹であり、「白い森小国」としてブナの森に恩恵を受けたブナ文化を育てている。



小国町のブナ林

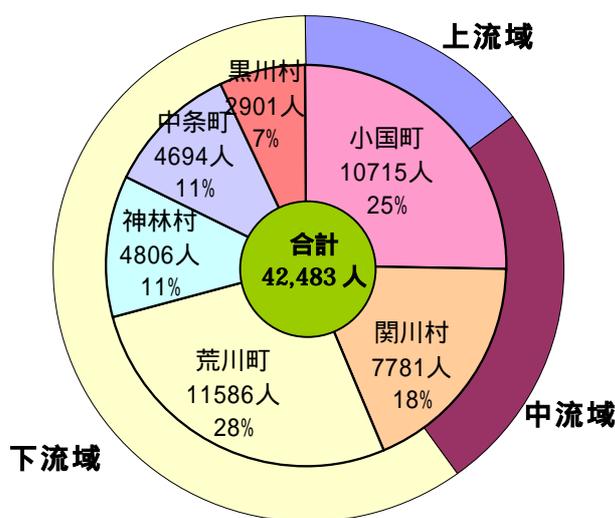
表3-1-1 荒川流域関係町村別の土地利用状況（単位：km²） 出典：小国町パノフレット

行政区域	土地利用分類								合計
	田	畑 果樹園等	森林	建物用地	幹線交通 用地	荒地 その他	水面	海浜	
山形県小国町	21.83	1.24	655.65	4.66	0.57	35.50	4.42	0.00	723.87
山形県飯豊町	0.00	0.00	17.20	0.00	0.00	0.23	0.00	0.00	17.43
福島県山都町	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.43	0.00	0.00	0.50
新潟県中条町	7.50	1.82	3.41	1.80	0.09	1.26	0.01	0.46	16.35
新潟県黒川村	7.55	0.33	25.30	1.06	0.00	1.25	0.00	0.00	35.49
新潟県関川村	17.52	2.75	248.94	3.86	0.49	11.91	8.85	0.00	294.32
新潟県荒川町	15.97	1.95	10.64	3.21	0.18	0.54	3.89	0.02	36.40
新潟県神林村	7.51	1.44	13.69	1.23	0.22	0.04	1.35	0.16	25.64
合計 ()内は%	77.88 (6.77)	9.53 (0.82)	974.90 (84.77)	15.82 (1.37)	1.55 (0.13)	51.16 (4.44)	18.52 (1.61)	0.64 (0.05)	1150.00

出典：国土数値情報 1/10 細分区画土地利用データファイル（土地利用）(H元)
国土数値情報 1/10 細分方眼行政ファイル（行政界）(H元)

3 - 2 人口

荒川流域内における総人口は 42,483 人（平成 7 年国勢調査地域メッシュ統計より集計）である。各町村の内訳は図 3 - 2 - 1 のとおりであり、下流部に多くの人口が集中している事がわかる。また流域関係町村別の人口をみると、表 3 - 2 - 1、図 3 - 2 - 2 に示すとおり、全体的な傾向として昭和 45 年をピークとして緩やかな減少傾向を示している。一方、世帯数は若干増加傾向を示していることから、流域内全体として核家族化傾向がみられる。



出典：平成 7 年国勢調査
地域メッシュ統計

図 3 - 2 - 1 流域内人口 (平成 7 年) の内訳

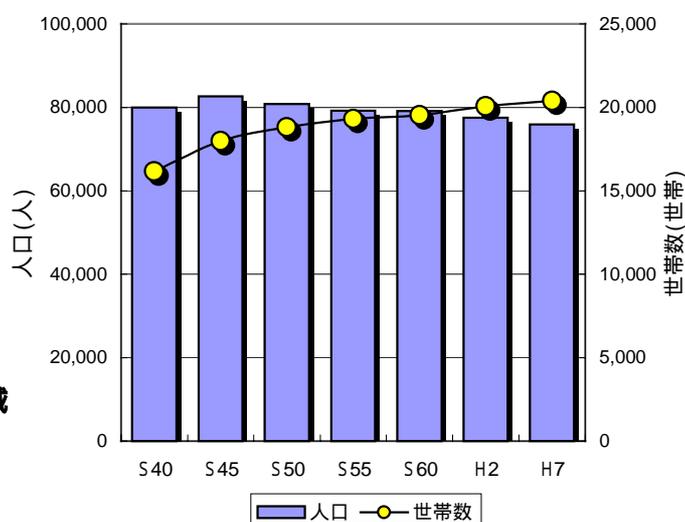


図 3 - 2 - 2 流域関係町村の人口
世帯数の変動

表 3 - 2 - 1 流域関係町村別の人口・世帯の推移

項目	区分	県	町村	S 40	S 45	S 50	S 55	S 60	H2	H7
人口 (人)	下流部	新潟県	神林村	13,213	12,358	11,682	11,515	11,629	11,279	10,988
			荒川町	11,168	11,109	11,038	11,247	11,417	11,353	11,597
			中条町	21,943	28,641	30,090	29,014	28,964	28,912	28,301
			黒川村	7,112	7,010	6,389	6,591	6,602	6,607	6,535
	中下流部		関川村	10,568	9,559	8,929	8,638	8,427	8,094	7,781
	上中流部	山形県	小国町	15,983	13,999	12,649	12,221	12,096	11,315	10,715
流域全体		合計		79,987	82,676	80,777	79,226	79,135	77,560	75,917
世帯数 (世帯)	下流部	新潟県	神林村	2,472	2,498	2,532	2,547	2,543	2,518	2,531
			荒川町	2,276	2,441	2,633	2,773	2,847	2,947	3,138
			中条町	4,425	6,173	6,895	7,169	7,250	7,869	8,007
			黒川村	1,293	1,346	1,347	1,407	1,489	1,475	1,540
	中下流部		関川村	2,107	2,075	2,063	2,092	2,066	2,047	2,021
	上中流部	山形県	小国町	3,589	3,447	3,345	3,325	3,337	3,216	3,168
	流域全体		合計		16,162	17,980	18,815	19,313	19,532	20,072

出典：国勢調査 (昭和 40 年 ~ 平成 7 年)

3 - 3 産業

荒川流域の新潟県側では、江戸時代に行われた新田開発による田地拡大が大きく寄与して、水稻を中心とした農業や林業、荒川を基盤とした漁業が栄えていた。一方、山形県側では農林業と合わせて水力発電による鉱工業が主であった。

近年ではＩＣ産業を中心とした第２次産業や観光産業が発達しており、工業では小国町における発達がめざましい。小国町では戦前に確立した工業が、現在は半導体製造業、水素吸蔵合金製造業という最先端技術を中心に集積しており、これらの工場には現在も多数の従業員が就業している。図3-3-2を見ると、平成2年のバブル期以降の出荷額に一時減少傾向は見られたが、全体として大きな発展を遂げていることから、今後も工業を中心として大きく発展するものと予想される。またもう一つの重要な位置を占める観光産業では、磐梯朝日国立公園を中心に、荒川・赤芝峡谷や丸山公園等に見られる美しい自然、温泉郷、スキー場等の観光資源が広く分布しており、毎年多くの観光客で賑わっている。さらに荒川には夏休みに釣り客等が多く訪れており、高速道路の延伸も相まって、今後の産業は観光を中心とした、第３次産業の更なる発達が予想される。

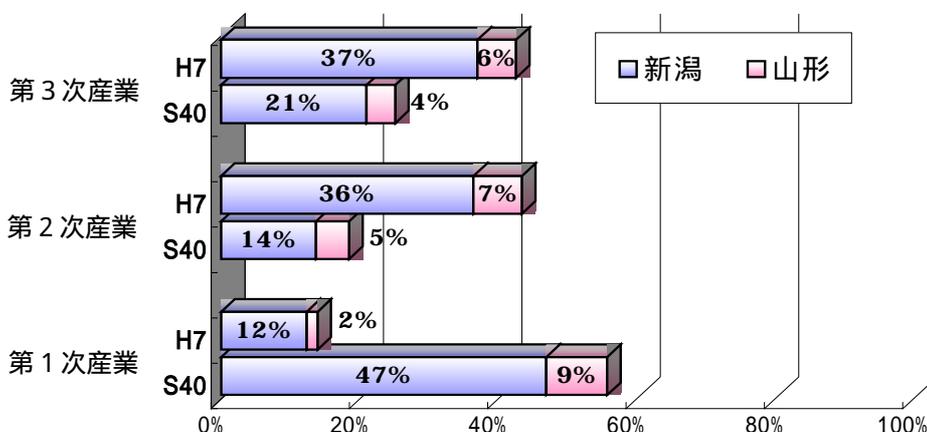


図3-3-1 流域関係町村産業別就労人口の推移

出典：国勢調査（昭和40年、平成7年）

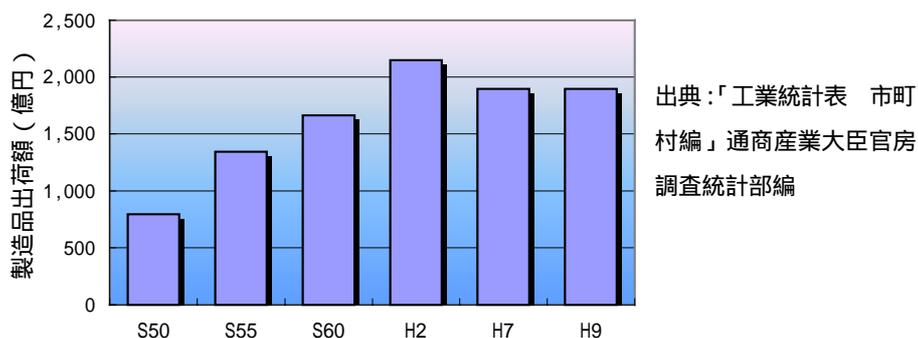


図3-3-2 流域関係町村製造品出荷額等の推移

出典：「工業統計表 市町村編」通商産業大臣官房調査統計部編

3 - 4 交通

荒川流域は、距離的には新潟市から 50～100 km、東京から約 270 km の位置にあるが、高速交通体系の整備が遅れていた地域のため、新潟市に対して長岡市とほぼ同じ距離条件にありながら、鉄道・道路を利用した場合に約 2 倍の時間を要していた。

しかし、近年では国道 7 号及び国道 113 号のバイパス化等整備が進められたことから、新潟及び東京、富山・金沢方面へのアクセスが容易となり利用時間も大幅に短縮された。今後は、日本海側を縦断する日沿道（日本海沿岸東北自動車道）や新潟山形南部連絡道路等の高速交通網の更なる整備により、地域における経済交流の活発化や文化交流の発展に大きな期待が寄せられている。

また荒川を横断する JR 羽越本線は、従来線の他に特急や急行が多く走り、特に坂町は JR 羽越本線と JR 米坂線との連絡駅であることから、鉄道交通の要衝となっている。今後は新潟と東北を結ぶ簡易新幹線の設置が予定されていることもあり、流域の更なる発展が期待される。

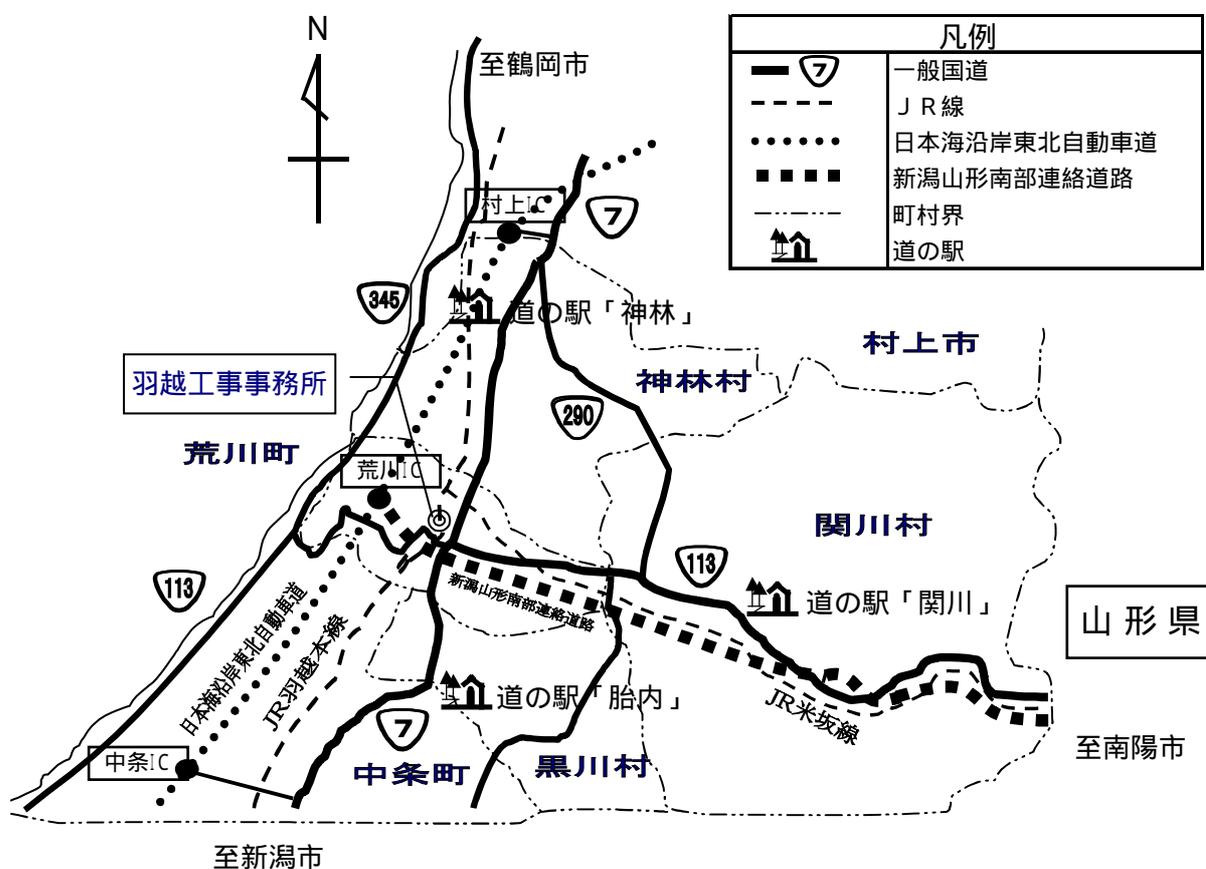


図 3 - 4 - 1 荒川流域の交通網